

Mt.FUJI100 全体説明会議事録

日時：2023年9月5日（火）15:00～18:00

会場：富士吉田市民会館 会議室1

出席者：

Mt.FUJI100 全体説明会 出席者名簿

2023年9月5日

No	氏名	所属・部署
1	齋藤 明光	環境省富士五湖管理官事務所
2	小西 美緒	環境省富士五湖管理官事務所
3	長田 明彦	富士五湖消防本部 救急課
4	半場 良一	環境省国内希少野生動植物種保存推進員
5	秋元 芳武	環境省公園指導員 ネイチャーナビ
6	渡邊 修治	日本野鳥の会 南富士支部
7	藤井 幹	公益財団法人 日本鳥類保護連盟
8	松永 聡美	公益財団法人 日本鳥類保護連盟
9	錦木 毅	Mt.FUJI100実行委員会 大会会長 NPO法人富士トレイルランナーズ倶楽部 代表理事
10	福田 六花	Mt.FUJI100実行委員会 実行委員 プロデューサー
11	三浦 務	NPO法人富士トレイルランナーズ倶楽部 事務局長
12	千葉 達雄	Mt.FUJI100実行委員会 レースディレクター 株式会社ソト工代表取締役
13	岡嶋 智己	Mt.FUJI100実行委員会 競技ディレクター 株式会社アールビーズ
14	影山 智海	富士市 交流観光課
15	西山 洋哉	御殿場市 スポーツ交流課
16	勝又 脩介	御殿場市 スポーツ交流課
17	上小澤 翔吾	富士吉田市 生涯学習課
18	神谷 知里	Mt.FUJI100実行委員会 事務局
19	関谷 正太郎	Mt.FUJI100実行委員会 事務局
20	岩谷 忠彦	Mt.FUJI100実行委員会 事務局
21	佐藤 暖加	Mt.FUJI100実行委員会 事務局
22	鈴木 磨美	Mt.FUJI100実行委員会 事務局
リモート出席		
23	中田 龍太郎	富士宮市消防本部 警防救急課
24	大嶽 若緒	環境省沼津管理官事務所
25	遠藤 淳	静岡県 東部農林事務所森林整備課
26	望月 靖郎	静岡県 ぐらし・環境部環境局自然保護課
27	織田 遼太	静岡県 ぐらし・環境部環境局自然保護課
28	福原 みさよ	富士山エコレンジャー連絡会
29	若林 由美	本栖湖いこいの森キャンプ場
30	加藤 弘一朗	株式会社時之栖 営業部
31	七井 辰男	特定非営利活動法人富士山クラブ
32	吉田 裕樹	公益財団法人 日本鳥類保護連盟
33	中尾 益巳	Mt.FUJI100実行委員会 実行委員 NPO法人ディスカバー・リアス 代表理事
34	大友 潤一	裾野市 産業観光課
35	小野田 菜都	裾野市 産業観光課
36	北川 浩正	富士河口湖町 生涯学習課
37	望月 昌宏	富士宮市 スポーツ振興課
38	堀内 伸	鳴沢村 教育委員会
39	片田 悠貴	身延町 企画政策課
40	佐藤 和	Mt.FUJI100実行委員会 事務局

議題

(1) 2024 大会運営計画説明

- ・大会概要について
- ・コースについて
- ・安全管理体制及びコースの迂回について
- ・自然環境に配慮した持続可能な大会運営の為に

(2) 環境活動報告

(NPO 法人富士トレイルランナーズ倶楽部より)

(公益財団法人 日本鳥類保護連盟より)

- ・ルートセンサス報告

(ランナー 吉田裕樹氏より)

- ・大会期間中野鳥生息調査報告

今後の対応及び次回大会について

(3) 質疑応答

(4) その他

<大会会長挨拶 鏑木>

「残暑厳しい中お集まりいただきありがとうございます。各地で夏祭りも復活しいつもの夏に戻ってきたと感じました。この大会は 2012 年から数えまして来年 10 回目の大会になります。その間多くの皆様に色々な形で支えていただきながらここまでやってこられたと思います。本当に改めて感謝申し上げます。

この先の新たな 10 年を我々は真剣に考えています。その中で今回は大会名、会場、コースあるいは運営理念などを大幅に変えて、次の 10 年に向けてより一層大きな盛り上がりを作っていければと思っております。今日は環境省さんもおり今まで富士山に限定していた環境保全の取り組みを富士箱根伊豆というエリアに拡大させてトレイルランニングをすることで環境保全やトレイル整備がよりよく進む流れをこの 10 年で確実に作っていきたいと思っております。今日はいろいろなご質問、ご懸念もあると思いますのでどうかご忌憚なく意見を頂戴できればと思います。本日はよろしくお願い致します。」

(1) 2024 大会運営計画説明

(配布資料「運営計画書」に沿って説明)

<コースディレクター 千葉>

大会名：Mt.FUJI100 2024/マウントフジ 100 (ひゃく)

商標問題のため大会名を変更。

商標諸権利を管理していた NPO 法人富士トレイルランナーズ倶楽部から、富士箱根国立公園を事業エリアとして活動をされている方々に対して支援を行い、大会

の商標管理をする一般社団法人を立ち上げ権利を保有していく。

ワールドトレイルメジャーズへ加盟し開催予定。賞金レースとなる。

開催日：2024年4月26日（金）～27日（土）

4月第4週がゴールデンウィークと重なるため大会日程を大幅に変更。

フィニッシュ会場は富士北麓公園富士山の銘水スタジアムに変更となる。

競技種目：FUJI100mi（フジ100マイル）

距離 166.6km 累積標高 7,039m

参加費 45,000円 駐車場料金 3,000円 手荷物預かり 1,500円

サポーター500名 金額未定

4月24日～25日受付

4月26日0時00分から0時30分 10分刻みでウェーブスタート

最終制限時間 4月27日 21時00分

KAI70k（カイ70ケイ）

距離 69.4km 累積標高 3,493m

参加費 29,000円 駐車場料金 2,000円 手荷物預かり 1,000円

4月26日受付

4月27日0時00分スタート

最終制限時間 4月27日 21時00分

エントリー期間：2023年11月1日（水）～19日（日）

12月5日（火）当選発表

主催：Mt.FUJI100 実行委員会

一般社団法人富士箱根伊豆トレイルサポート

マウントフジ共同事業体

（株式会社ソトエ、リージョンポート合同会社、株式会社アールビーズ）

後援：今後国際レースに復帰するためにも、コース変更などの自然環境対策を経て静岡県にご説明申し上げ後援申請の予定。

イベント・その他

Virtual FUJI/KAI 2023年10月7日、17日から開催

EXPO/RACE VILLAGE 2023年4月24日～26日 富士北麓公園内で開催

コース

コースマップ4 竜ヶ岳を通るコースに変更。

雨に弱いトレイルであるため迂回路を設定したうえでモニタリング調査も行う。

コースマップ5 精進湖から鳴沢氷穴までを青木ヶ原樹海を通行に変更。

特別保護地区ではあるが通行には問題はないのではと考え、環境省へ申請を検討。迂回路も設定。

コースマップ7 会場が北麓公園と変更になったことに伴い富士登山道へコース変更。
KAIのスタート時には交通規制をかける。

コースマップ8 距離調整の為、大平山をショートカットするコースに変更。

コースマップ10 会場が変更となっているのでそれに伴ったコースの変更。

迂回路を7か所設定し、大会3日前に最終のコースを判断する。

すべてのエイドに医師、看護師を配置する。

(3) 質疑応答

<コースディレクター 千葉>

「情報共有についてはいかがでしょうか。」

<富士五湖消防本部救急課 長田様>

「消防本部の指令センターの方でもスプレッドシートを見させていただいております。幸い昨年度は事故等ありませんでしたので、スプレッドシートを活用することはなかったのですが、トレイルでの事故等が発生した場合には有効な手段になると指令センターでの意見がございました。決して悪いことではないので続けてもらえるのであればこちらも活用していきたいと思えます。」

<富士宮市消防本部警防救急課 中田様>

「こちらもそのような計画がありますともし救急があったとき対応がしやすいので、例年通り同じ対応をしていただければ助かります。」

<レースディレクター 千葉>

「必携品として義務化してはいないがココヘリ、レンタルココヘリを活用し、利用者の情報も共有し安全強化をしていきたいと思っております。」

<富士五湖消防本部救急課 長田様>

「2点質問をさせていただきます。昨年度、当初手前どもにお越しいただきその中で山岳での事故発生の想定の中で救急車、消防隊のドッキングポイント、ヘリコプターによる救出ポイントを何点か作っていただき地図に落とし共有したことがありますが、今年も行っているのか。」

またコース変更に関して青木ヶ原樹海の中を通ると、地図を見る限り国道沿いの東海自然歩道を通るようですが、夜間道を外れてしまうことも考えられる。安全管理を踏まえて教えていただきたい。」

<レースディレクター 千葉>

「1つ目の山岳事故発生時のドッキングポイント、エスケープルート含めての地図ですが安全管理チームが作成して提出させていただきます。」

2つ目の青木ヶ原樹海に関して、そもそも使えるかはこれからの議論になるのですが、危険なところに関しては有人誘導を置き、ここに関しては携帯電話が繋がるエリアではあり

ますので他の所に比べて、しっかりと有人誘導を置けば深刻なことにはならないと思っております。」

<プロデューサー 福田>

「樹海で心配になるのが故意でなくても道を外れて入ると出てこられなくなってしまう。なので 100m おきに夜でも見えるようコースマーキングテープを多めに貼りたいと思っております。選手は全員携帯電話を持っておりますので GPS データがあればほぼ出てこられると思います。なるべく人も多く配置することを考えております。」

<富士宮市消防本部 中田様>

「携帯電話を持たれるので緯度経度がわかれば遭難等したときにも詳細な位置が確認できますので、見方等を周知していただければと思います。」

<富士五湖消防本部救急課 長田様>

「本栖湖周辺のコース変更に関して、この辺りは山岳救助が普段から多発する場所でありますので、コースのコンディションを見ながら随時変更していくことをお願いしたい。」

<ネイチャーナビ 秋元様>

「過去にエイドステーションに医師、及び看護師、救急車をセットしているという例があったと思いますが。」

<プロデューサー 福田>

「救急車をセットしたことはありません。エイドステーションは医師と看護師が全て配置してありました。あとは大会の車両として搬送できる車を用意しているケースはありますが、救急車は常備していません。」

<ネイチャーナビ 秋元様>

「これだけの人を集めてリスクの大きい大会を開く場合に当然救急車を主催者側が用意すべきだと思っている。先日山中湖で野外コンサートがあり、3 日間で1万5千人集める。その時に家にいたが音でうるさくて不愉快だったが、救急車が1日に5回も6回も通る。3千人も集まるイベントで当然主催者側が救急車かそれに代わる車を用意すべきだと思っています。」

<プロデューサー 福田>

「エイドステーションは8か所あり、救急車を8台の用意は。」

<ネイチャーナビ 秋元様>

「そんなにはいらないと思いますけどね。」

<プロデューサー 福田>

「緊急時の搬送については消防とも綿密に連絡を取っておりますし、大会の車両の準備はあります。救急車の準備は今までもしたことはないです。その辺も含めて安全管理対策はしっかりとしていきたいと思っておりますので、またご意見を頂ければと思います。」

<ネイチャーナビ 秋元様>

「見ていると重篤な傷病者とか出ていないのでいいと思うが、万が一出た場合はやはりそれなりの対策を取っておくべきかと思って意見させていただきました。」

<プロデューサー 福田>

「また検討させていただきます。」

(2) 環境活動報告

<NPO 法人富士トレイルランナーズ倶楽部事務局長 三浦>

「毎年環境活動として鳥類調査をしておりますが、今年の大会前後に行いました調査の報告を致します。今回から全コース周辺の影響を調べるにあたり、基礎資料集めとして鳥類保護連盟にお願いして調査をしていただきました。何故これまでの調査と変えたかといいますと、この10年の世界的な情勢を見ても当時大会を始めた頃、気候変動対策は脱炭素と言われていた記憶があります。ここ何年かで急速に生物多様性が言われるようになり、特に昨年のCOP15以降30by30であるとかOECD、ネイチャーポジティブが国家戦略として明確に掲げられるようになり、また我々のスポンサーをしてくださっている協賛企業の皆さんにおいてもESG経営であるとかTCFD、TFNDが問われるような時代になってきています。自ずと大会をご支援頂く企業の皆さんの自然環境への眼差しに関しても今まで以上に変わってきておりますので、我々自身の自然環境への考え方と意識、行動をバージョンアップしていきたいと思い今回鳥類保護連盟に調査をお願いしました。その結果を藤井さんよりご報告をお願い致します。」

<公益財団法人 日本鳥類保護連盟 藤井>

(ウルトラトレイルマウントフジコース周辺鳥類生息状況、調査場所について)

*保護上の観点から「生息状況」等は割愛させていただきます。

<公益財団法人 日本鳥類保護連盟 吉田>

(ウルトラトレイルマウントフジコース周辺鳥類生息状況調査について)

*保護上の観点から「生息状況調査」等は割愛させていただきます。

<日本野鳥の会南富士支部 渡邊様>

「昨年とは異なる一般鳥類の調査を行っていただき御礼を申し上げます。その報告をうかがったのですが、私の目で見ただけでは明瞭にさえずりが減っていることがグラフに見えます。この大会が始まった当初我々の支部でもって一般鳥類の調査を行い、当時は大会が繁殖期の真っただ中で、大会の前日、大会の終わった翌日に一般鳥類の調査を行いました。主に繁殖に関連するさえずりを中心の調査で、今の結果とほとんど同じ結果が出ていて、その結果をこちらで報告しました。それをもって開催時期を変更していただきました。前倒

ししていただいたこともありましたし、秋に変更になったこともあります。それから、特別な鳥としてクマタカの調査を行っていただいた。私の方にしても天子山塊でクマタカの調査を何年かお願いしていた。

今回の調査では天子山塊ではなく他でやっていただいたと思うのですが、ただ巣鉢を特定したわけでもなく、不確定要素の多い結果で判断しようがないのですが、今回の調査結果によって大会の開催が直接影響あるかというのは断定できません。調査を継続してもらえないわけでは。簡単に言うともっと人数をかけてください。お金をかけてください。日にちも使ってください。巣鉢を必ず特定してください。コストをかけて有益な結果を出してください。クマタカの調査について今回の結果をもってどうのこうのというのはないというのが僕の感想です。ぜひ調査についてはそれをお願いしたい。」

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>

「こんな調査で一般鳥類なんてわかりませんよ。繁殖しているかどうかともわからない。事実明神山で繁殖している。それが何もわからないまま進められて、私には何もわからない。図もわかりづらい。影響があったかも私にはわからない。調査は全くなっていない。それでいいと思っています？この調査で結果がちゃんと出ていると思います？」

<公益財団法人 日本鳥類保護連盟 藤井>

「鳥が繁殖していた、繁殖していないという具体例を出さないとわからないということですが、少なくとも私たちは鳥を調査すること自体影響が出るものと思っています。今言われたみたいにデータが全然わからないと言われるかもしれませんが、具体的には渡邊さんもご存じだと思いますが、はっきりと影響が出ていることを示すための調査はそう短日では出るものではないと思います。今言われたようにもっとお金をかければいいじゃないかという話があるかもしれませんが、お金をかけてたくさん調査をしたことでその調査の影響が出たらどうするということがあります。今回の前後の2日間でやった調査で全部わかりますというつもりでやった調査ではなく、あくまでもここで議論する土台、たたき台にしていただきたいと思って出させていただいた。これで何もわかりませんというのであれば、さらにそこを具体的に調査するにはどうしたらいいかと検討しなくていけない。少なくともこの調査を積み重ねることでわかってくるのが当然あると思います。どの調査研究においても短日、例えば1日だけ調査をやってすべてのことがわかりますということはもちろん調査研究の中でありえない話で、それをいかに長く続けていくか、その中でどういう影響を見出して、どういう対策をつけるかが1つのステップとしてやらなくてはならないことだと思います。これで全部わかります影響がありませんと言っているわけではなく、逆に影響がありますとも言っているわけでもない。このデータだけではよくわからない、やった意味がないというのではなく、これをいかに積み上げていくかだと思います。そこは1本目として方向を作っていくということで意味があると私は思っています。ただそれは本年度の調査で何もわからないということであればどうするか富士トレイルランナーズ倶楽部と相談させていただきましても、少なくとも私の方では積み重ねが必要だと思っています。

単年度で大量に人を導入しての調査は鳥に影響がでることを危惧しておりますので、単純にお金の話もあるかもしれませんが、調整していかねばいけないのかと思います。昆虫と違って鳥の影響を示すのは難しいことなので、どのように皆さんに示していけるのかというのはまた渡邊さんの方からもご意見いただけたら進めていけるのではと思います。そんな中で地元の人が動いていただきたいというのもあります。日本鳥類保護連盟が大会前後に入って毎日来て調査をやりますということではなく、地元の野鳥の会の人が入ってもらいデータを取っていただきたい。」

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>

「私たちが会の為に動くのですか？」

<公益財団法人 日本鳥類保護連盟 藤井>

「会の為ではなく、鳥に関して影響が出ているということを調べるためにデータを持ち寄るということです。」

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>

「私が努力するの？会が努力するべきなのではないですか？」

<公益財団法人 日本鳥類保護連盟 藤井>

「会が努力すると言われますけども、例えば富士トレイルランナーズクラブの中で何千万と出せるかという出せないわけです。」

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>

「じゃあ、やめるしかないですね。」

<公益財団法人 日本鳥類保護連盟 藤井>

「そこの話し合いをしていただきたい。」

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>

「じゃあ、あなたはやらせたいのね？」

<公益財団法人 日本鳥類保護連盟 藤井>

「私は大会に関してやっていい、やってはよくないと言える立場ではありません。」

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>

「じゃあ、私にそれを言われても困ります。」

<公益財団法人 日本鳥類保護連盟 藤井>

「私はあくまでも議論をするためのデータをここに持ち寄るということです。」

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>

「会の為に私が頑張る必要ないですよ。私は野鳥の為に頑張っているのです。会の為には頑張っていない。繁殖期を外してくれって言うだけです。それ以外は言っていない。」

<公益財団法人 日本鳥類保護連盟 藤井>

「私の方では繁殖期を外す外さないを議論する立場ではない。あくまでもそれを議論してもらうためにデータを持ち寄るためにここにいさせていただいていますので。」

<NPO 法人富士トレイルランナーズ倶楽部事務局長 三浦>

「ご意見ありがとうございます。我々は鳥類に関しては全くの素人でありましたので皆さんからのご意見を伺うしかないわけです。その中でデータを積み上げていくことで変わっていく根拠に基づいて適切な判断をできるとのことで鳥類保護連盟様にお願いして調査を始めた経緯です。先程申し上げた通り、今回から調査領域を広げることでより一層この富士山麓の自然を理解したということで始めております。何度も申し上げますけどこれ1回で何かすべてをわかって「いい」「悪い」というわけではないと思っております。やはり今回分かったことを参考に調査を続けデータを積み上げていくことが我々にとってもよりよい判断に繋がると思っておりますので、この件は引き続き継続をしていきたいと思っております。」

<日本野鳥の会南富士支部 渡邊様>

「調査を続けながら継続しその積み重ねによって何か結論が出るかもしれません。それが分からないままずっと継続していくことは、ずっと継続して影響を与え続けるっていることです。運営計画書 24 ページに野鳥の繁殖時期を考慮して大会開催を実施すると書いてあります。どこが考慮しているのですか。考慮するなら秋にやりなさい。天候がどうのこうのとありましたが、9月には台風があると聞いていますし大雨も多いです。じゃあ10月ならどうかというと1か月じゃ変わらない。じゃあ、もう1か月ならどうですか。11月ならまだ雪は降りませんよ。11月初旬の過去のデータを見ると非常に天気がいい。検討してみてください。いいですか。繁殖時期を考慮して開催するという事はそういうことなのです。」

<コースディレクター 千葉>

「繁殖時期を考慮していますけどお話を色々頂いた上で開催しています。11月の話も全体で議論しました。山のことに限っては渡邊さんよりも我々の方が安全管理を含めて詳しいかと思えますけどもリスクがあります。本来なら4月末ですら雪が降ったことがあります。山は急変してしまうと渡邊さんがお住まいは大丈夫かもしれませんが、山の上はリスクが伴いますので渡邊さんの話を聞いたうえで十分に検討をさせていただいたき、時期を決めているとご安心頂けたらと思います。」

*会議室移動の為、一時中断

(4) その他

(コース変更箇所についての経緯、詳細を配布資料「コースマップ」に沿って説明)

<コースディレクター 千葉>

・コースマップ4 竜ヶ岳

悪天候の場合落石の懸念があり安全管理上の観点から好ましくないため。大会3日前の開催会議でより慎重にコース選定を行う。金曜日走行想定なためすれ違うハイカーも少ないと予想している。

・コースマップ5 青木ヶ原樹海

国道通過の安全性の懸念、トレイル率の向上、参加者満足度の向上のため平日通過想定の今回に走行の機会を設けたい。対策として環境モニタリング、利用モニタリングを実施。歩道管理面にも環境面にも重々配慮をしていくが、特別保護地区のため環境省の指針により原則回避ということは承知している。使用不可である場合は国道へ再びコースを変更する。

・コースマップ8 大平山

大会の運営上コースフォーマットを一定にするために大平山の通行を回避する。

<本栖湖いこいの森 若林様>

「今回本栖湖がコースから外れ残念ではありますが、樹海の中に関して個人的ですが意見を述べさせていただきます。

今までエイドステーションとしてお出でいただいたのですが、大会以外の面で選手の方が走るとのことで登山道の整備を選手の方々、大会の方々にご協力いただいていた。身延町として富士山の周りに身延町があることを選手などいろいろな方に知っていただいている。他の方が使う登山道を一緒に整備させていただいていたことがすごく大きかったと思います。コースをまた戻していただければすごくありがたいことですし、今回樹海の中がコースになり選手の方が使うことで保全などにまた力を入れていただけるのでコース変更に関しては前向きに考えていければいいと思います。」

<環境省富士五湖管理官事務所 齋藤様>

「今回の青木ヶ原樹海を通過に関して特別保護地区のエリアを検討されるとのことですが、やはり慎重に検討する必要があると私は考えています。その理由として説明では特別保護地区以外ではトレランの大会概要では環境省が出しているガイドラインに外れたものではないとありましたが、そもそも富士箱根国立公園の中の特別保護地区青木ヶ原樹海と考えるとその自然を厳正に守るエリアとして指定しているのでその利用について歩くであったり走るであったり利用ルールについて少し考えなくてはならない。東海自然歩道の計画があり歩道として事業執行をされている中でその歩道を今回走って使いたいというのは今まで歩道として使ってきた方々のご意見もあるでしょうし、そもそも歩道であれば環境省としても事業計画を通して自然を楽しんでいただけるエリアとして計画を通して認めているわけですから何が走ると歩くでは違うのか、それが1人の人が走るのものと大会としてたくさんの方が走るのでは変わるものというのをもう少し慎重に多面的に考えて評価する必要があると思いました。今私が説明を聞いてできないという判断はできないがもう少し地域の方の考えだとかガイドさんがどう使っているか、ランナーパスとして考えることは大事ですけども現在の自然環境に応じた対応は引き続きしていただければと思っています。」

<プロデューサー 福田>

「今おっしゃられていることはすべてもっともだと思いますので慎重に検討を重ねたいと思います。青木ヶ原樹海に関して個人的な意見もあるのですが、私は20年前からそばに住んでいまして青木ヶ原樹海が大好きなので今でも頻繁に通っています。一番心を痛めるのが青木ヶ原樹海というのは日本で一番恐ろしい場所だといまだに日本中に認識されています。私自身20年間で自殺志願の方を3回保護しています。全部早朝に森の中を走ったり歩いたりしているときに見つけ昨夜自殺しようと思ったのだが死ねなかったと。

そして不法投棄がものすごく多かった。20年前の樹海はゴミだらけでした。ウルトラトレイルマウントフジを含め自分が主催している3つのレースでこの樹海の一部を使わせていただいています。本当にゴミだらけで、大量にタイヤやガラスが捨ててり私が大好きな樹海がこんなことになっていてつらいなと思ひまして毎年毎年ゴミ拾い活動を続けております。

個人的な意見にはなりますがレースに慎重な検討を重ねながらも、レースに使う事は樹海にとってもそんなに悪いことではないと思っております。

引き続き慎重に進めたいと思っておりますので色々なご理解とご意見をいただけたらと思います。」

<レースディレクター 千葉>

「特に今回青木ヶ原樹海の件は、今日皆さんにご納得いただくとはもちろん思っておりません。今日がスタートだと思っております。関係者様も今日初めて聞くことですし、そもそも特別保護地区ということで、はいわかりましたというものでもないことは重々承知しております。お仕事を増やして大変申し訳ありませんが、その調整と、青木ヶ原樹海で利用されている方がいらっしゃるといことも含めてと、一部エコツアーをされている方ともお話をし提案させて頂いております。より多くの方の意見をいただきながら最終的に決めていきたいと思っております。今日結論を出すことは全くないので、福田や鏑木の思いもある中で、昨日今日日程が変わったからではなく、かなり前から行いたいという思いの中で今回試験的にやるには平日なのでということでさせて頂いております。我々も力を入れて、コンセンサスを図っていききたいと思っておりますので引き続きよろしくお願い致します。」

<レースディレクター 千葉>

「秋元さん、エコツアーにご迷惑をかけるかどうかは、どう思われますか？何かご意見いただければと。」

<エコレンジャー 秋元様>

「ガイドで使っている場所は西湖の周辺が多いのでこちらに来る団体の影響を受けるということとはとても少ないです。すれ違うエコツアー、団体ではなくグループが主だと思っております。」

<レースディレクター 千葉>

「エコツアーの方々には個別で会を開かせていただいご意見をいただくお時間をいただいた上で最終決定をしていきたいと思っておりますので引き続きお願い致します。」

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>

「樹海もさることながら富士山をよく歩くのですが、走っている人がすごい勢いで来て危なかった話をよく聞きます。須走で練習している人がいて、砂塵をあげて集団で来てとても怖かったといいます。樹海の中でそれをやるのかと。もちろん野鳥のことも気になっていますが、そんなことになると。特にあそこは狭くて溶岩でゴツゴツじゃないですか。こけたら大変です。」

<大会会長 鏑木>

「日本トレイルランナーズ協会会長もしておりますが由々しきことだと思っています。基本トレイルランニングをするときにはハイカーに出会ったら走ることをやめて歩く、すれ違う、しばらく経ってから走り始めるということを中心に啓蒙しているが、コロナ禍もあり新しい人が入ってきていますのでしっかりと協会としても啓蒙しながら、そういうことがないように努めていかないといけないと思っております。」

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>

「会長だからそう言わざるを得ないのですが、実際にすごいです。富士山は危ないじゃないですか。ずるずる滑るところもある。そこで砂塵をあげて走っていくって。」

<レースディレクター 千葉>

「大砂走の砂塵ですよ。」

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>

「そうです。」

<大会会長 鏑木>

「昔からある富士登山駅伝という相当長い歴史がある大会がございまして。」

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>

「トレランじゃないのですか？」

<大会会長 鏑木>

「トレランではないとは言えませんが、そういった影響があるのかと思います。それにしてもハイカーがいるところむやみやたらに走って追い抜くということは現に慎むべきだと思いますし、そういう流れにしっかりとしていきたいと思っております。」

<公益財団法人 日本鳥類保護連盟 藤井>

「(コース変更の件で) 前もって三浦さんから相談を受けていましたがわからないというところが正直なところで、その周辺で似たような環境がありざっくりと見させていただいたのですが今後調査をしたいという三浦さんからの意向もあり何かしら影響を調べるということであればデータを積み重ねなければいけないと思うのですが、草原性の鳥と違って

かなりデータが取りにくいです。何故かというとは樹林の中だと目視ができない点、渡邊さんからアドバイスをいただいたさえずりを聞いた時に距離をおとせず正確な位置がわからない点です。同じ場所にいても鳴いている方向で大きく変わってくる。草原性の鳥であれば目立つが樹林内であるとかかなりあやしくなっていくので、データとしてきれいに出不いのではないかと思う。NPO 法人富士トレイルランナーズ倶楽部としてもデータをきれいに取って影響についてもしっかり考えたいと姿勢を示していただいているので、もしやるのであれば渡邊さんとも相談しいい方法をしっかりと出したいと思います。」

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>

「どうしても繁殖期をさげられないですか。自分たちが走るためには繁殖期も仕方ないと自覚しているのですか。ずっと言い続けているが、24 ページに野鳥の繁殖期を考慮して大会をと書いてある。」

<日本野鳥の会南富士支部 渡邊様>

「この一文を取ってくれませんか。」

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>

「これ、むかつきます。全員が。繁殖期を考慮するといいながら繁殖期にやっているのはおかしいでしょう。絶対に耐えられない。」

<レースディレクター 千葉>

「大会については毎回出られていると思いますが、毎回コースが変わっています。開催時期に関しても今回も変則的な時期になっていますけども変わっています。我々他の大会も行なっていますがこんなに手間のかかる大会はありません。普通だったらできないです。野鳥の調査についても行うところはないと思います。ご理解いただくことはできないとは思いますがその一文に関しては外しません。考えているからこそ調査をお願いしています。もちろんご理解いただけないということも受け取ります。半場さんや渡邊さんのご意見も受け止めます。我々ができることは一生懸命やっていきたい。もしかしたら我々の完全な落ち度でもうやめたほうがいいということが見つかるかもしれません。それはそれで受け止めなければいけないというなかで行なっています。我々の精一杯の中でのコンセンサスを取り野鳥のことも考えながらやっていくという方針は変わりません。」

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>

「外すことだけではなく、日にちを変えることもしないんですか。しないと断言するわけですね。」

<レースディレクター 千葉>

「そういうふうには言ってはおりません。毎年日程含めて、常に再検討行いながらやっている大会ですというお話をお伝えしたつもりなので、半場さんの認識は真逆です。」

<日本野鳥の会南富士支部 渡邊様>

「半場さんが言っている日程というのは繁殖期ではない日程に変えることはありませんと

いう意味で、日程を変えることができないのかと聞いているんです。」

<レースディレクター 千葉>

「同じことを返しますが、過去に渡邊さんがおっしゃいましたが、具体的には繁殖時期は2月から8月ということでしょうか。」

<日本野鳥の会南富士支部 渡邊様>

「イヌワシがないので、寧ろ12月から始めないといけません。」

<レースディレクター 千葉>

「12月から8月を繁殖時期と。」

<日本野鳥の会南富士支部 渡邊様>

「影響のことを考えたら2月から7月までですね。この時期を外していただくのことがありがたいんですけど。」

<大会会長 鏑木>

「野鳥のことを考えたらそういうこともあると思います。ただこの大会をやるにあたり本来にたくさん関係機関と色々な人たちと調整しながら、危険な山地帯のレースですからリスクもあり、地域振興もあります。環境の話に特化しがちですが色々な方々の話を聞きながら命がけでやっている大会です。その中でももちろん環境は大事で、それも含めて時期をいつも検討しています。その中で4月末が年間を通してこれでないと厳しいという判断でやっています。色々な側面を見ながら状況は変わるかもしれませんがその中で検討できる余地があればもちろん検討していきます。断定はしませんけども、こういうスタンスでこの大会を開催しておりますのでぜひご理解を賜ればと思います。」

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>

「死んでいく小鳥たちに理解してくれと言ってもしませんよ。どう理解したらいいんですか。」

<大会会長 鏑木>

「色々な側面があると思います。鳥たちの都合も大切だと思います。総合的に緩和して世の中の色相というのはそういうものじゃないですか。一枚岩だけですべてが解決できるわけではない。」

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>

「そこだけを外してくれと言っているんだ。他は言っていない。それ以外一切言わないです。」

<大会会長 鏑木>

「そこを外すことによって様々な齟齬が出てくるということです。」

<日本野鳥の会南富士支部 渡邊様>

「だったら大会をやめるしかないですね」

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>

「やめるしかないですね。」

<日本野鳥の会南富士支部 渡邊様>

「そういうことです。」

<大会会長 鏑木>

「極論ではないですか。」

<日本野鳥の会南富士支部 渡邊様>

「全部をたてて、全てをうまくいくようにということは不可能です。だったらやめるしかないです。」

<レースディレクター 千葉>

「そうすると、2月から8月なので富士山競走もだめです。富士登山駅伝もだめです。自衛隊の総体演習もやめてもらわないとだめです。お話は受け止めますけど、色々なバランスの中、富士山で色々なことをやっています。」

<日本野鳥の会南富士支部 渡邊様>

「人を攻撃しても自分を正当化することはできないですよ。わかっていますか。」

<レースディレクター 千葉>

「正当化をしていません。」

<日本野鳥の会南富士支部 渡邊様>

「だったらこれはだめ、あれはだめと。」

<レースディレクター 千葉>

「渡邊さんのやめるしかないですね、という理屈で言うとそういう話になります。」

<日本野鳥の会南富士支部 渡邊様>

「そうですね。もちろん富士登山競走も反対しています。」

<レースディレクター 千葉>

「8月で言うと富士登山も1日多いときは3千人4千人が行っています。あれはいいのですか。」

<日本野鳥の会南富士支部 渡邊様>

「あれはかまわないです。森林限界を越えているので生き物がいないので。残念ながら鳥はいないので。」

<レースディレクター 千葉>

「僕は水ヶ塚からあがりますが、いるじゃないですか。富士山丘陵林もあるじゃないですか。」

<日本野鳥の会南富士支部 渡邊様>

「そこから登るといいますか。富士登山というのは5合目から登ることを言っているわけではなくて、海拔0メートルから行く人も含めてすべて禁止をしろというのですか。」

<レースディレクター 千葉>

「全く思っていない。」

<日本野鳥の会南富士支部 渡邊様>

「一般的な富士登山について今私は話しています。」

<レースディレクター 千葉>

「森林限界を越えているから問題ないのですか。」

<日本野鳥の会南富士支部 渡邊様>

「森林限界を越えているのであれば全く問題ないです。森林限界を越えたという条件付きの富士登山であれば全く反対しません。モンブランの大会を富士山に当てはめようということがだめなのです。モンブランの大会は全部森林限界の上じゃないですか。」

<鍋木>

「それは競技を冒涇していると思わざるを得ないですよ。」

<レースディレクター 千葉>

「行かれたことありますか、モンブラン。」

<日本野鳥の会南富士支部 渡邊様>

「いや、そんなことは知りません。」

<レースディレクター 千葉>

「街は森林限界を越えていません。3人とも行っています。鍋木も行っています。そういう不確かな情報をここで言うことはやめてください。行ったことはないのですよね。憶測で言うことはやめてください。」

<日本野鳥の会南富士支部 渡邊様>

「了解しました。」

<大会会長 鍋木>

「冷静さを欠いた議論になってしまっって申し訳ないですが、色々な方々とコミュニケーションを取りながら今後も調整していきたいと思っております。」

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>

「調整する余地はあるのですね。」

<レースディレクター 千葉>

「余地はあります。」

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>

「我々が納得するようなことになる可能性も十分にあるわけですね。そう思って、また来ます。何もしてくれないので次から来るのをやめようと思った。」

<大会会長 鍋木>

「無下に断っているわけではなく十分に検討してうえで結果としてこういう状態になっていることですので、決して渡邊さんや半場さんの意見を不意にしているわけではない。」

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>

「私たちは結果しかいらぬです。興味ないです。走りたい人は走ればいいが、野鳥の邪魔はしないでくれと思っているだけ。結果しかいらぬです。」

<大会会長 鏑木>

「なかなか調整が難しく、ご納得いただけないこともあると思います。これだけはお伝えしたいのですが、この会議は非常に重いです。この年に2回の会議に非常に緊張して厳粛に受け止めてこの場に立っています。言葉も選んでいますし、皆様のご意見を拝聴してできる限り取り入れて素晴らしい大会にしたいと思っています。どうしても色々なものを取り入れれば、取り入れられないことも出てくるわけです。その中で今後も言葉を受け止めながら取り組んでいきたいと思っています。」

<レースディレクター 千葉>

「我々は結果ではなくプロセスが大事だと思っています。そもそも本当に自然環境にいいか悪いかを断定するのは実際に難しいですし、我々知らなかったことが出てくるかもしれないのでやはり余地を残しながら、結局は人間が生きている以上は富士山に影響が出ざるを得ない。富士五湖の方は人も住まれていますし、自衛隊もありますし、色々なものがあります。そのような中で環境も人を中心に考えざるを得ないということでやっていくので、やはり最終的には意見が合わないことは出てくると思うのですが、一番大切なのはプロセス。思い通りの結果にいかなかったとしても話し合いを続けていくことだと我々は思っております。事実コース変更をさせてもらったり1周をやめたりですとか迂回路を全部設定するとか我々でもできることはやってきたつもりです。まだまだ不十分だとお叱りをいただくのは重々に受けとめながら色々な余地を残しながら世界中の方々にこの大会を愛されるように頑張ってきたと思っていますので引き続きよろしくお願い致します。」

<プロデューサー福田 挨拶>

「今日は本当にお忙しい中、貴重なご意見も含めてありがとうございました。繰り返し同じ話になりますが私たちも命がけでやっております。止めてしまえばいいと言われると生活を糧にしている人間もいますので。トレイルランという文化を日本に根付かせることを我々が命がけでやっていることなのでそう簡単に止めるわけにはいかない。ただ、皆様のご意見は本当に全部聞かつもりでおりますので引き続きお付き合いください。今日は本当にありがとうございました。」

議事録作成

Mt.FUJI100 事務局 鈴木磨美